

習近平政権の着地点Ⅲ

全体主義イデオロギーとしての習近平思想

塩沢 英一

Neo Totalitarianism ideology in Xi Jinping Thought

Eiichi SHIOZAWA

はしがき

中国で2012年に習近平指導部となって以降、最高指導者習近平への権力集中やメディアなどへの言論統制が強まったことは知られている。中国共産党の事実上の一党支配体制において最高権力者の影響力が強く、党がイデオロギーを重視することは昔から一貫している。ただ鄧小平以降の改革開放路線でイデオロギーは希薄化していた。習近平指導部に入り、再びイデオロギー性が高まり、2017年の党大会で打ち出された指導理念「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」（略して習近平思想）は、その思想名称の権威性にとどまらず行政、社会、個人を強く支配するようになり、2022年の党大会ではイデオロギーの拘束力がさらに強固なものになった。本稿ではまず習近平思想とは何か、その特徴を整理する。その上で、習近平思想が党組織や国民全体を貫く全体主義的イデオロギーであると試論し、その問題点を指摘する。「全体主義」という概念は生まれた当初から近年まで、さまざまな定義がなされ、冷戦時代以降は「反共」の政治的レッテルともなった。思想を指すことも政治体制を指すこともある。1920年代にこの概念が誕生して以降の概念史を描いた歴史学者エンツォ・トラヴェルソの著書『全体主義』を手がかりに、習近平思想の全体主義性を検証する。

第1節 習近平思想とは何か

1. 中国の公式定義

習近平の思想の正式名称は「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」といい、2017年秋の第19期中国共産党大会での政治報告で党の指導理念として提示され、党規約を改正して明記された。党規約上、これまで

のマルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論、江沢民の「三つの代表理論」、胡錦濤の「科学的発展観」に続いて指導理念となった。習近平思想とは具体的には何なのか。2022年10月16日に開催された第20回中国共産党大会の政治報告で習近平は、第19回党大会と第19期中央委員会第6回全体会議（6中全会）で確認した「十の明確、十四の堅持、十三方面の成果」が主な内容だとしている。

「十の明確」は①中国の特色ある社会主義の最も本質的な特徴は共産党の領導。中国の特色ある社会主義の最大の優位性は共産党の領導。中国共産党は最高の政治指導力。全党は「四つの意識」¹を増強し、「四つの自信」²を確固たるものにし、「二つの擁護」³をしっかりとやらねばならない②中国の特色ある社会主義を堅持・発展し、総任務は社会主義現代化の実現であり、小康社会の全面的実現を基礎に、二段階に分けて今世紀中葉までに、富强、民主、文明、和諧、美しい社会主義現代化強国を築き、中国式現代化によって中華民族の偉大な復興を推進する③新時代の我が国の主要な矛盾は人民の日増しに強まる美しい暮らしへの需要と、バランスを欠いて不十分な発展との間の矛盾であり、人民を中心とする発展思想を堅持し、全過程人民民主を發展させ、人の全面发展を推進し、人民全体の共同富裕をより明確な形で実質的に發展させる④中国の特色ある社会主義事業の総体配置は経済建設、政治建設、文化建設、社会建設、生態文明建設の「五位一体」であり、戦略配置は社会主義現

¹ 政治意識、大局意識、核心意識、看齐（一体化）意識の四つを指す。

² 中国の特色ある社会主義路線への自信、理論への自信、制度への自信、文化への自信を指す。

³ 習近平が党中央と全党の核心であることを擁護し、党中央の権威と集中統一思想を擁護することを指す。

代化国家を全面的に建設し、改革を全面的に深化させ、法治を全面的に進め、党を全面的に厳しく統治することの「四つの全面」である⑤改革を全面的深化させることの総目標は中国の特色ある社会主義制度を完成させて発展し、国家の統治体系と統治能力の現代化を推進すること⑥法治の全面推進の総目標は中国の特色ある社会主義法治体系を築き、社会主義法治国家を建設すること⑦社会主義基本経済制度を堅持し完成させ、市場を資源配分における決定的な役割とし、政府の役割をより発揮させ、国内大循環を主体とし国内、国際双循環を相互促進する新しい発展局面づくりを加速させ、質の高い発展を推進し、発展と安全の調和を図る⑧党の新時代の強軍目標は、党の指示に従い、戦って勝てる、気風の優れた人民の軍隊を建設することであり、人民の軍隊を世界一流の軍隊にする⑨中国の特色ある大国外交は民族の復興のために服務し、人類の進歩を促進し、新型国際関係づくりを促進し、人類運命共同体建設を推進する⑩党を全面的に厳しく管理する戦略方針を明確にし、新時代の党の建設の総要求を提出し、党の政治建設、思想建設、組織建設、作風建設、規律建設を全面的に推進し、制度建設を貫き、反腐敗闘争を徹底して進め、党を管理し党を治める政治責任を着実に果たし、偉大な自己革命によって偉大な社会革命を牽引する一である。

第1表 習近平思想における十の明確

十の明確	分野
中国の特色ある社会主義の最も本質的な特徴は共産党の領導。四つの意識、四つの自信、二つの擁護	政治、統治論
中華民族の偉大な復興と今世紀中葉の富強民主・社会主義現代化強国を実現	国家目標
豊かな暮らしへの需要と人民を中心とし不均衡の矛盾解決のため共同富裕	経済
五位一体、四つの全面	大局観
改革の全面深化目標は社会主義制度を改善し国家統治体系を現代化	政治
社会主義法治体国家の建設	政治
社会主義基本経済制度を維持、政府の機能強化、国内大循環、質の高い発展、発展と安全の統合	経済
世界一流の軍隊をつくる、軍の党への絶対忠誠	安保
中国特色大国外交を進め人類運命共同体を推進	外交
中国共産党を厳しく統治し、反腐敗闘争を推進し、自己革命で社会革命を牽引。	政治

(資料) 第19期6中全会「歴史経験談話」より筆者作成。

「十四の堅持」は①党がすべての業務を領導することを堅持する②人民を中心とすることを堅持する③改革の全面深化を堅持する④新発展理念を堅持する⑤人民が主役であることを堅持する⑥全面的な法治を堅持する⑦社会主義核心価値体系を堅持する⑧社会保障と民生の改善を堅持する⑨人と自然の和諧共生を堅持する⑩総体国家

安全観を堅持する⑪党の人民の軍隊に対する絶対的領導を堅持する⑫一国二制度と祖国統一の促進を堅持する⑬人類運命共同体づくりの推進を堅持する⑭党を全面的に厳しく管理することを堅持する一である。

第2表 習近平思想における十四の堅持

14の擁護	分野
党が一切を指導	政治、統治論
人民中心	政治
改革の全面深化	政治
新発展理念	経済
人民が主人公	政治
全面法治	政治
社会主義核心価値体系	価値観
民生を改善	経済
人と自然の共生	社会
総体国家安全観	安保
党の軍への絶対指導	安保
一国二制度・祖国統一	政治
人類運命共同体推進	外交
党を厳しく統治	政治

(資料) 第19回中国共産党大会活動報告より筆者作成。

「十三方面の成果」は要約すれば①党の全面的な領導上、党中央の権威と集中統一指導を強化②全面的な党の嚴格管理上、自己革新により緩んでいた統治を改善③経済建設の上で、発展のバランス、持続可能性が改善され総合国力は新たな段階に飛躍④改革開放政策の全面的深化の上で、中国の特色ある社会主義制度は成熟し、国家統治システムは向上⑤政治建設上、社会主義民主政治の制度化、規範化が進展⑥全面的法治の上で、中国の特色ある法治が改善し、法治による党の国家領導や統治能力は著しく改善⑦文化建設上、イデオロギー面で根本的に轉換し、文化への自信が強化され社会の求心力が向上⑧社会建設上、人民の生活が全面的に改善し、社会管理のレベルが向上⑨生態文明(エコ)社会建設にかつてない力で行組み、生態環境保護は歴史的に発展⑩国防・軍隊建設上、革命的な組織改編を実現し、実際の行動で国家主権、安全、発展を防衛⑪国家安全が強化され、長期的な安定のために有力な保証を提供⑫一国二制度と祖国統一上、香港とマカオで愛国者統治を実現し、台湾では主導権を掌握⑬外交工作上、中国の特色ある大国外交を展開し、国際的影響力が大きく向上一である。

『習近平新時代中国特色社会主義思想學習問答』は一般向け学習用に作成された参考書で習近平思想を説明している。ここには習近平思想について次のように定義している。「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想は、新時代に堅持・発展する中国の特色ある社会主義思想の総目標、総任務、総体配置、戦略配置と発展方向、

発展方式、発展動力、戦略ステップ、外部条件、政治保障などの基本問題を含み、ならびに経済、政治、法治、科学技術、文化、教育、民生、民族、宗教、社会、生態文明、国家安全、国防軍隊、一国二制度と祖国統一、統一戦線、外交、党建設など各方面に対する新しい実践に基づいて作り出した新理論概括と戦略ガイドラインである」。

「八の明確」(のちに十の明確となる)はこの思想の「最も核心の鍵となる組成部分」で、「十四の堅持」は基本方略であり、党の領導と五位一体の総体配置、四つの全面の戦略配置を含み、国防軍隊建設、国家安全の維持、対外戦略を含み党の統治の重大方針、原則の新概括であり、二つの百年の奮闘目標⁴を実現し、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するための路線図と方法論であるとしている。

まとめると「十の明確」は統治論、国家目標、経済目標、法整備、安全保障観、外交のあり方、党内規律など広範な理念を羅列的に示している。最も重要なのは1番目で、中国の特色ある社会主義によりすべての頂層(トップダウン)設計をすることを宣言し、それを領導するのが共産党であり、その中心は習近平であり、その領導に従わねばならないとしている。「十四の堅持」はより具体的な政策目標を示しているが「十の明確」と重なる内容も少なくない。共産党の一方領導や法治の推進、外交面での人類運命共同体推進がその一例である。

「十三方面の成果」は「十の明確」「十四の堅持」におけるこれまでの具体的成果をアピールした内容で、これが思想と呼べるものか疑問だろう。

2. 内容が拡大していくプロセス

上記の中国側が定義する習近平思想は、総書記就任以来の習近平の発言が基になっている。『習近平談治国理政』(習近平 国政運営を語る)は、習氏の発言をまとめた文献で、共産党が国内外に宣伝する習近平思想のエッセンスである。前述した「十の明確」や「十四の堅持」などの要素は全4巻にちりばめられている。『習近平談治国理政』を整理すると、思想が固まっていくプロセスがみてとれる。

習近平は総書記就任直後から「中華民族の偉大な復興」が「中国の夢」と強調するなど従来の指導部とやや力点の異なる発言が注目を集めた。ただ「中華民族の復興」は江沢民時代の1997年の第15回党大会から提起さ

れていることであり、それ自体は新しくはない。胡錦濤前総書記も2011年10月の辛亥革命100年の記念大会で「中華民族の復興実現の道のりは長い」と語っている。

そして2014年10月に習近平の発言を集めた『習近平談治国理政』(1)が出版された。これは演説やインタビュー、談話、祝賀メッセージなど79本を集めた。この時点では「新時代」や「思想」という名称は出ていない。中華民族の偉大な復興を含め指導部発足当初は前指導部から継続性が強い内容だった。

2017年10月の第19回党大会で、習氏の一連の言説を「習近平の新時代の中国特色ある社会主義思想」として一つの「思想」と位置づけた。ここでは21世紀半ばまでの中華民族の偉大な復興という中国の夢実現と社会主義現代化強国の実現が目標として前面に打ち出され、習思想の中核となった。直後に出版された『習近平談治国理政』(2)は(1)以降の論説99本を載せている。(2)の巻頭では「習近平の新時代の中国特色ある社会主義思想」が指導思想になったとし、習近平を同思想の「主要な創立者」と位置づけた。ここに集約された論説には「新時代」という表現は出てこない。

2020年4月に出版された『習近平談治国理政』(3)になって、冒頭で同思想が党規約や憲法に明記されたことを踏まえ、「政治生活と社会生活の根本指針」であり、「21世紀のマルクス主義」であり、中華民族の偉大な復興を実現するための「行動指南」とした。92本の論説をまとめた。(3)以降の論説に「新時代」という言葉が頻出するようになる。(3)になり習近平思想の骨格がより明確になっていく。

第20回党大会の年の2022年5月に出版された(4)は104本の演説や書簡をまとめ、巻頭の出版説明で習近平思想は「マルクス主義中国化のあらたな飛躍を実現した」と強調し、習氏は「一連のオリジナルな国政運営の新理念、新思想、新戦略を提出し、中国の問い、世界の問い、人民の問い、時代の問いにより科学的に答えた」としている。2021年11月の第19期6中全会で習思想を充実させ、完成させたという自負がうかがえる。6中全会の歴史経験決議を取り込んで、党幹部に対し「二つの確立⁵の決定的意義を深く理解し、四つの意識を増強し、四つの自信を堅持し、二つの擁護をしっかりと実践する」よう求めている。(4)の構成はマルクス主義の中国化から始まり、党の全面指導、経済発展のあり方、法治、安全保障、外交と続く順序も第20回党大会の報告の構成とも似ている。(4)の冒頭文からみても習近平思想の要は中国の特色ある社会主義と「二つの擁護」と「二つの確立」にあることがわかる。

⁴ 第1の目標は中国共産党創立百年の2021年までに「小康社会」を全面的に完成させる。第2の目標は中華人民共和国建国百年となる2049年までに「社会主義現代化国家」を建設するというもの。

⁵ 習近平の党中央と全党における核心としての地位と習思想の指導思想としての地位の確立。

「十の明確」は、2021年11月の6中全会決議の前までは「八の明確」だった。6中全会決議で新たに加えられた二つは「四つの意識」「二つの擁護」といった党と習氏への思想統一、忠誠の部分と、国内大循環などの経済発展方式だった。「八の明確」の段階でも8番目に「党の指導」はあったが、6中全会で、わざわざ「四つの意識」や「二つの擁護」が追加され、冒頭に配置された。こうした経過からみても、この思想の最重要ポイントは党と習思想への一体化を求める「四つの意識」「四つの自信」「二つの擁護」であることは明確である。

「四つの意識」とは「政治意識、大局意識、核心意識、看齐（一体化）意識」の四つである。「四つの意識」のうち、「政治意識」とは共産党員としての自覚を持って党に従うことであり、「大局意識」とは大局をしっかりと認識することであり、大局を認識すれば党に従わなければならない。「核心意識」とは習近平氏を核心とする党中央に従うことであり、「看齐（一体化）意識」とは、習近平総書記を核心とする党中央に足並みをそろえることを意味する。つまり四つはすべて党と習氏の下での団結、服従を意味する。

「四つの自信」は、文化自信を除けば党と、その路線に自信を持つことを求めている。「二つの擁護」は習氏が党中央と全党の核心であることを擁護し、党中央の権威と集中統一思想を擁護することである。結論すれば「四つの意識」も「四つの自信」も「二つの擁護」も党の下に団結、服従することを要求している。そして2021年から新たに「二つの確立」も求められるようになったが、二つはいずれも習氏への忠誠、服従を意味している。これが思想の要である。6中全会決議は、全党・全軍・全国各民族人民に習近平思想を全面的に貫徹するよう呼びかけた。

就任当初の演説や思想は、国家目標や、経済路線、政策目標などが中心だったが、第20回党大会に至って全党員、全社会が従い、遵守するべきだという全体主義性が明確に追加された。習総書記は党大会閉幕式の演説で、大会成功の理由として「思想統一ができた」ことを真っ先に挙げている。

第2節 習近平思想の特異性

1. 歴代政権からの変化

以上にみた習近平思想は、国家や政治体制のあり方から国家の発展目標、国民の基本的な価値観、政治、経済、社会、文化、教育、安全保障など個別政策まですべての領域に及ぶ。そして特異性はそれを全党員、国民が堅持すべきイデオロギーとして求めていることである。

中国が毛沢東時代の全体主義から改革開放路線に舵を

切った後、政治的には権威主義体制との位置づけがなされ、それは民主主義への移行期としての権威主義と認識されていた。イデオロギー性がなくなったわけではなく、鄧小平には指導理論として「鄧小平理論」があり、江沢民には「三つの代表」論があり、胡錦濤には「科学的発展観」があった。いずれも党規約に明記されている。鄧小平理論は「先富論」を柱とする市場経済を是認する理論であり、三つの代表は共産党が最も広範な人民の利益を代表するとして私営企業家の入党を認め、マルクス主義の階級論を乗り越える内容だった。科学的発展観は経済や社会、環境とのバランスをはかりつつ持続可能な発展を目指す考えだった。これらはいずれも大きな方向、党や政府の大局観を示す理論で、庶民の生活とは直接関係なかったといってもいい。

習近平思想は国家から社会、個人にまで及び私生活も変えつつある。単なる権力集中だけではなく、全生活を覆うイデオロギーによる思想統一となったのである。社会の隅々まで党の存在が浸透し、学校や社区（町内会）でも政治規律が求められるようになった。習近平思想は、鄧小平の改革開放路線以降、市場経済化、資本主義路線で社会主義思想が希薄化したことに強い危機感を抱き、社会主義思想に新たな息を吹き込み、新しいイデオロギーを構築する試みだった。社会主義こそが中国に必要なのだと改めて教育し、中華民族の屈辱の歴史とそこからの発展というナラティブによって改めてナショナリズムを喚起し、「四つの自信」などの精神論によって中国人の自信を高めた。

第1節で習近平思想として『習近平談治国理政』を取り上げたが、ほかにもさまざまなテーマ別の発言集が出版されている。政治、経済、文化、軍事、安全保障、外交、教育といった具体的な分野での政策論、精神論である。書簡集というのもあり、30冊を超える。一体どこまでが習思想の範囲なのか。習近平が語ったことすべてが習近平思想と言っている。

中央党校の専門家によれば、習近平の演説や談話によってその都度範囲が拡大、思想に取り込まれ、実態が形づくられていく⁶。分野ごとに担当者が整理し、党政策研究室や中央宣伝部が文章にまとめていき、その集大成が習近平思想である。『治国理政』は習近平の演説、講話のエッセンスで、対外向けにも翻訳されている。実際には分野ごとに習思想があり、党や政府の担当者はそれを日々学習している。

個別分野の論説集でも、党への政治的一体性、服従を求める論説は必ずといってよいほど登場する。たとえば『論堅持人民当家作主 習近平』は人民重視に関する論説をまとめた発言集だが、「党中央の権威と民主集中制

⁶ 中央党校専門家への筆者による聞き取り。(2021年)

第3表 習近平氏の主な演説集

習近平談治國理政 1	外文出版社	2014年10月
習近平談治國理政 2	外文出版社	2017年11月
習近平談治國理政 3	外文出版社	2020年6月
習近平談治國理政 4	外文出版社	2022年5月
習近平關於中國特色社會主義政治建設論述摘編	中央文獻出版社	2017年10月
習近平關於中國特色社會主義社會建設論述摘編	中央文獻出版社	2017年10月
習近平關於中國特色社會主義文化建設論述摘編	中央文獻出版社	2017年10月
習近平關於中國特色社會主義經濟建設論述摘編	中央文獻出版社	2017年6月
習近平關於中國特色大国外交論述摘編	中央文獻出版社	2020年1月
習近平關於總體國家安全觀論述摘編	中央文獻出版社	2018年4月
習近平關於網路強國論述摘編	中央文獻出版社	2021年1月
論堅持黨對一切工作的領導 習近平	中央文獻出版社	2019年10月
論堅持人民當家作主 習近平	中央文獻出版社	2021年11月
習近平關於防範風險挑戰、應對突發事件論述摘編	中央文獻出版社	2020年9月
習近平關於戒形式主義官僚主義重要論述摘編	中央文獻出版社	2020年5月
習近平關於注重家庭家教家風建設論述摘編	中央文獻出版社	2021年3月
習近平總書記教育重要論述講義	高等教育出版社	2020年3月
論中國共產黨史 習近平	中央文獻出版社	2021年2月
論黨的宣傳思想工作 習近平	中央文獻出版社	2020年11月
習近平論強軍興軍 1	解放軍出版社	2017年5月
習近平論強軍興軍 2	解放軍出版社	2019年10月
習近平論強軍興軍 3	解放軍出版社	2022年6月
習近平關於國防和軍隊建設重要選編	解放軍出版社	2014年4月
習近平關於實現中華民族偉大復興的夢論述摘編	中央文獻出版社	2013年12月
習近平關於全面依法治國論述摘編	中央文獻出版社	
習近平扶貧論述摘編	中央文獻出版社	2018年8月
習近平關於科技創新論述摘編	中央文獻出版社	2016年1月
習近平關於尊重和保障人權論述摘編	中央文獻出版社	2021年12月
習近平論黨的青年工作	中央文獻出版社	2022年6月
習近平外交演講集 1、2	中央文獻出版社	2022年5月
習近平關於協調推進四個前面戰略布局論述摘編	中央文獻出版社	2015年10月

(資料) 出版物から筆者作成。

の擁護」に関する論説が掲載されている。『習近平關於中國特色大国外交論述摘編』は外交に関する論説集だが、冒頭には「党の権威を維持し、党の対外工作における集中統一指導を強化する」との論説が掲載されているといった具合である。

2. 全体主義的要素

全体主義について最も定着している定義は、ドイツの政治学者カール・ヨヒアム・フリードリッヒとビグネフ・ブレジンスキの共著『全体主義的絶対権力と独裁制』によるものだ。①至福千年のヴィジョンに色濃く染まり、社会のあらゆる部分を覆い尽くすイデオロギー②独裁者が君臨するピラミッド構造の唯一の党③秘密警察による恐怖④メディアの独占⑤さまざまな形式による暴力の独占⑥中央による計画経済—の六つが特徴としている⁷。イデオロギーによる支配という点が、ただの権威主義や専制主義と区別される全体主義の明確な特徴だろう。全体主義国家には権力者によってつくられた世界観が共有されている。

習近平思想を解説する『習近平の新時代の中国特色ある社会主義思想基本問題』は、党にとってイデオロギー工作が「極端に重要」と強調している。以前は受動的になり、思想宣伝は軽視され、弱体化し、主流思想の地位が浸食されたが逆転した。ネット上でも良くない言論が流布したが好転した、と思想宣伝工作の成果を評価する。そして「全党全社会のコンセンサスを凝集し、思想上の団結と統一を実現する」ことを求めている。

フリードリッヒの定義に従えば、毛沢東時代は①毛沢東思想②共産党③国家安全部や公安部④中央宣伝部⑤人民解放軍⑥計画経済が構成要素だった。毛沢東の世界観が全土を覆っていた。改革開放路線転換後は②共産党の支配⑤武器の独占—をのぞけば、①イデオロギー支配④マスコミの独占⑥経済統制—は緩和される傾向にあった。人民解放軍の国軍化が模索された時期すらあった。1989年の天安門事件で②党の優位性が再び強調され、党政分離の試みは頓挫した。習近平指導部では習近平思想により単一イデオロギーやマスコミコミュニケーションの独占、党の優位性が再び強化されている。

全体主義には自由主義への懐疑がある。ナチス・ドイツを支持した政治学者フォルストホッフは「全体国家の充溢は自由主義国家の対極にある。自由主義国家は断片化のゆえに、つまり特殊利益が法律によって保証されているゆえに、矮小化し完全に内容を失っている…全体国家は自由主義では絶対にないものを示す自由な言葉なのである」「全体国家が前提にするのは権力の秩序と民族の秩序である」と主張した⁸。習近平にも同様の考えがある。習近平思想のうち強軍思想の柱となる『強軍興軍』(1)で「西側国家は民主政治が世界最良と宣伝し、救世主として「民主拡張」を至るところで推進していたが、いま一部の国は分裂し、政治スキャンダルが絶えず、統

⁷ エンツォ・トラヴェルソ 『全体主義』(119頁)

⁸ エンツォ・トラヴェルソ 『全体主義』(41～42頁)

治に矛盾が噴出している。古代中国には党争（権力集団の争い）があったが、いまは西側の党争が過剰になり、民衆は西側の統治に失望している」と民主主義諸国を批判し、中国の政治制度に自信を示している。

全体主義は個人よりも国家を至上のものとして位置づけた。ブリタニカ国際大百科辞典は、全体主義について「個人の利益よりも全体の利益が優先し、全体に尽すことによつてのみ個人の利益が増進するという前提に基づいた政治体制」と定義している。習氏は家庭教育に関する『習近平関于注重家庭家教家風建設論述摘編』では「国家の発展があってこそ、家庭や個人の幸福がある」と、家庭よりも国家利益優先を強調している。もはや民主主義国は断片化しており、全体主義的体制こそが個人の幸福につながるという発想がうかがえる。

習近平思想を学ぶ小学校低学年教材では習近平が子どもの頃、南宋時代の武将岳飛の母が岳飛の背中に「精忠報国」（全てを犠牲にして国のために尽くす）と入れ墨した故事を教えられ、以来精忠報国が自分の目標であると述べて、児童にも求めている⁹。

イタリアの全体主義を支えたファシズム文化イタリア研究所長のジェンティーレはファシズムの定義について「ファシズムの教義の全体主義的な性質、それは国政の方向や国民の秩序を定めるのみか、国のあらゆる意思、思考、感情に関与する」「国家と個人が同一化する。つまり国家と個人は必然的総合の分割不可能な二項なのである」と述べている¹⁰。この考え方は習近平思想と重なる。習思想を学ぶ小学校低学年用の教材には「愛国とは口頭にとどめてはならず、自己の理想と祖国の前途、自己の人生と民族の命運を緊密につなげて、人民に根付いた国家奉獻することである」¹¹との習近平の言葉が引用されている。

3. 三層構造の習近平思想

さまざまな論述集を概観すると、習近平思想は三つの内容に大別できる。第1は統治方式に関する規範的理論で、中国共産党の統治の必要性や歴史的必然性、習近平がその党の核心となり、習思想がその指導思想となることの絶対性を説く。第1節で説明した通り、十の明確や十四の堅持でも、統治理論が最重要である。

第2は民族主義やマルクス主義といった価値観や世界観、大局観といった物の見方に関する論述だ。弁証法や

唯物史観による世界観を求める論述もある。中華文明に自信を持って、といった自意識の問題も含まれる。社会主義の核心的価値観も含まれる。そこには徳治や法治といった中国の伝統的な考えも強調されている。

第3は個別分野の政策や目標だ。政治、経済、社会、文化、安全保障などの各分野で、全過程人民民主、新発展観、社会管理強化、世界一級の軍隊建設、科学技術の重視、エコロジーな社会づくり、愛される中国のイメージづくり、など広範囲にわたる。

これらを三層構造と見なすこともできよう。最上層は統治理論でトップダウン、党や習近平が権力の決定の核心になるとの権力一極集中の政治体制の正当化である。第2層はそれを支える価値観体系、第3層はそこから敷衍される個別的な政策である。

全体主義では国家と個人が直結し、社会空間が狭まる。エンツォ・トラヴェルソは「全体主義は<国家>と<社会>の境界を消し去ろうとする。言い換えれば市民社会は国家の中に吸収されてしまう」と指摘している¹²。習近平指導部下では公民社会運動などは封じ込められ活動ができなくなった。胡錦濤前指導部時代は、環境非政府組織（NGO）から公民社会を根付かせようとするNGO、官僚などの不正に苦しむ庶民を支援する人権NGOまでさまざまな市民運動が活発化していた。また各地の書店では、中国の民主化や政治文化を自由に語る研究者らの講演会も一年中、あちこちで開かれていた。しかしこうした活動は胡錦濤指導部末期の2011年ごろから活動が制限されたり、活動の場が閉鎖されたり、自立的な市民運動は消失しつつある。

全体主義は有事に強い軍事体制ともいえる。全体主義の概念形成に貢献したイタリア人司祭、ルイジ・ストゥルツォは1936年、ボルシェヴィズムのロシア、ファシズムのイタリア、ナチズムのドイツの共通点は「極端な中央集権、社会の軍事化、統制経済政策、学校やコミュニケーションシステムの政治的管理」と指摘した¹³。これも現在の極端なメディア統制や統制的な経済政策と重なる点が多い。共産党の政治体制は、元来戦時に強い体制だ。民主主義国が必要な手続きのために議論する時間を経ることなく政府は人民を大量動員し、新型コロナウイルス封じ込めのための住民大量隔離、収容施設建設、医療従事者の投入などを可能にした。

全体主義では国家有機体説が唱えられる。ノーベル文学賞作家、エリアス・カネッティらは全体主義の群衆について「大衆は共同体になり、理想の指導者をいただき、情熱につき動かされ、永遠に続く信仰の絆によって、ひとつの集団—人民、国民、民族—に融合しなくてはなら

⁹ 『習近平新時代中国特特色社会主義思想学生読本小学低年級』（49頁）

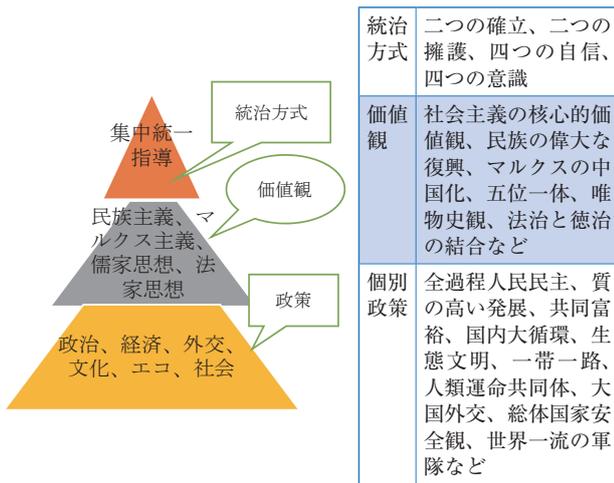
¹⁰ エンツォ・トラヴェルソ『全体主義』（33頁）

¹¹ 『習近平新時代中国特特色社会主義思想学生読本小学低年級』（5頁）

¹² エンツォ・トラヴェルソ『全体主義』（21頁）

¹³ エンツォ・トラヴェルソ『全体主義』（49頁）

第1図 習近平思想の概念図



ない」と描写した¹⁴。これは習近平が求める国家のイメージであり、共同体は「中華民族共同体」と同義である。

全体主義では記憶や認識を管理する。イギリスに亡命したポーランド知識人、レシエク・コワコフスキは「社会主義体制はすべての人々を奴隷にかえ、したがって全体主義的な特徴を帯びる」と述べ、また全体主義を「人間的記憶の完全な管理統制」の試みとしている¹⁵。習指導部のもとでは、党の歴史を巡って文化大革命や天安門事件についての歴史認識の再構築が進められ、党の公式解釈に反する論文の発表はいっそう困難になっている。

4. 強まる思想統一

1977年、チェコスロバキア共産党下の人権弾圧を批判したことで知られる「憲章77」の発起人の一人、ペトル・ウールは「全体主義とは、その意見、その振る舞い、その生活様式を、規格化する意志である」と定義している¹⁶。

習近平思想が全体主義化していることの一つの証左として党や政府の官僚の言動を挙げることができよう。習近平指導部では、個別の政策や白書、政策の進行状況をメディア向けに説明する際に習近平の名前に言及して習との関わりを強調することが激増した。言及する際に多いパターンは①「習近平を核心とする党中央指導下で」や「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想の指導の下で」と習総書記の指揮下の政策であることを示す②習総書記が政策を重視していることを強調する③習総書記が政策について重要な発言や決定をしたことを示す—といった形式が多い。

国務院新聞弁公室の公式ウェブサイト公表されてい

¹⁴ エンツォ・トラヴェルソ 『全体主義』 (20 頁)

¹⁵ エンツォ・トラヴェルソ 『全体主義』 (139~140 頁)

¹⁶ エンツォ・トラヴェルソ 『全体主義』 (145 頁)

る記者会見記録を基に会見の冒頭説明で習近平の名前に言及しているかどうかを2013年から2021年までを調べた(冒頭発言の後の記者との質疑応答は含めない)。習近平が国家主席に就任した2013年は会見での「習近平言及率」は9.3%に過ぎなかった。しかし習近平思想が党大会で党規約に入った2017年には44.3%と約半数の記者会見で「習近平総書記が…」と発言するようになった。そして2020年には90%に達している。習近平に触れていないのは統計発表ぐらいだ。三つの代表も科学的発展観も党規約に明文化されたが、それでも官僚が会見の場でわざわざ名前を挙げることは多くなかった。いま党、政府担当者は習近平思想の忠実な体现者なのだ。

習近平思想は小学校低学年から大学まで、教育の現場でも必須科目となった。小学校の低学年児童が習思想を学ぶ教材は「世界の東方に中国という偉大な国家がある」で始まり、1ページ目に習近平の大きな写真が登場する。

公務員以外の党員たちも習近平思想の習得を強いられている。学習強国という携帯電話アプリがあり、党員たちはこのアプリに組み込まれた小テストを頻繁に行い、ポイントをかせがねばならない。北京市の民間の弁護士事務所に勤める弁護士によると、党支部でも習近平思想の学習はあり、多くはアプリで学習している。上部団体からの管理・監視は2017年の第19回党大会以降は厳しくなり、送られてくるショートメッセージや指示も増えたという。党は弁護士事務所を含め民間企業の隅々まで指示系統をもち習近平思想の徹底を図っている。

ある中国人は娘が学校から帰宅し、泣いていることに驚いたが、理由を尋ねると「習おじいさんの偉大さに感激した」といわれたという。また別の中国人は、子どもたちから「中国は素晴らしい国なのに、なぜ親たちは国の悪口ばかりいうのか」となじられたという¹⁷。文化大革命や天安門事件といった政治的事件を経験し政治に冷

グラフ1 国務院新聞弁公室記者会見における習近平への言及率



(資料) 国務院新聞弁公室のウェブサイトから筆者作成。

¹⁷ 筆者によるある中国人ジャーナリストへの聞き取り。

めた中高年世代とは異なり、若い世代は習近平思想による教育で愛党・愛国意識が着実に育っている。

第3節 全体主義のリスク

方向性が明確な全体主義的イデオロギーは、機械仕掛けのような効率性を示すことがある一方で、一度決まると異論を挟めずに暴走する。全体主義を研究した哲学者ハンナ・アーレントは著書『エルサレムのアイヒマン』で、大衆は服従するだけで思考停止に陥ったと指摘し、ユダヤ人大虐殺の背景には民族への強烈な憎悪などではなく、そうした民衆の「凡庸な悪」があったとしている。

習近平思想を学ぶ際には覚えるだけで、疑問や反論は許されていない。アプリで正しい答えを選ぶだけである。中国の歴史を振り返れば、社会が自由で開放的な春秋戦国時代には諸子百家の多様な思想が生まれた。対照的に焚書坑儒で知識人を弾圧した秦代に思想は停滞した。強いイデオロギー支配が続けば社会の活力や人の創造力は減退していくだろう。

全体主義の社会を描いたジョージ・オーウェルの小説『1984』は国民の語彙や思考を制限した結果、表現が単純化する「ニュースピーク」という言語が出てくる。いま官製メディアは、習近平思想に使われている言葉であふれ、表現の貧困化が顕著だ。習近平が庶民には「幸福感、獲得感、安全感」が必要と語ったことはすでに習近平思想の一部になっているが、地方の行政担当者たちからは「私たちは幸福感、獲得感、安全感を得ている」と同じ言葉が返ってくるが増えた。少なくとも表面的には感情までも支配し始めているのである。『1984』では、国民の記憶を管理するため過去の記録の消去や書き換えが行われたが、習思想では共産党史を見直し、新たに出版された『中国共産党簡史』では文化大革命時代の記述は、党内権力闘争の部分などが削除され、外交の成果や核開発など前向きな評価が押し出された。

また過激な民族主義は「敵か味方か」の二元論に陥りやすい。ナチスを支持した反自由主義者の政治哲学者カール・シュミットは「全体主義は友と敵の区別をもとに、政治的秩序を回復させなくてはならないのだ」と主張した¹⁸。いまの習近平指導部は米中対立が激化する中で、世界各国に中国の「敵か味方か」の踏み絵を迫るようになってきている。「敵対勢力が中国の政権転覆を企てている」と習近平自身が語って敵意や警戒感を示した論述もある¹⁹。中国の理論家の間では、習近平が就任したころからカール・シュミットのブームがおきている。

¹⁸ エンツォ・トラヴェルソ『全体主義』（39頁）

¹⁹ 「西側へ激しい敵対心」2017年10月26日、共同通信配信

明確な全体主義の起源としては、第一次大戦後に生まれたイタリアのファシズム、ドイツのナチズム、ソ連のスターリニズムの体制がある。いずれも20世紀に誕生した新しい政体であり、19世紀の自由主義の行き詰まりを背景として誕生した。産業革命により共同体が破壊され、個人が疎外され貧富格差が拡大していた。そうした状況下で、国家と個人が一体化し国家有機体の一部として個人が解放されるとの考えがあった。その後、ナチズム、スターリニズムの後、全体主義は否定的なイメージに転落したが、当時は機能不全をおこした自由主義に取って代わると期待する人もいた。カール・シュミットもナチスを支持し入党した。

習近平思想の全体主義的イデオロギーが生まれた背景にも一部似た状況がある。冷戦後の「歴史の終わり」によって新自由主義が主流となり、再び貧富格差が拡大し、欧米の民主主義もきしみが生じ、自由民主主義諸国でも人権問題などが表面化した。習近平思想はこうした歴史的状況の中で一定の説得力を得た。中国は連日、米国の人権問題や民主主義の混乱ぶり報道している。国内の世論誘導のためだが、自由民主主義諸国が多くの問題を抱えていることも事実である。

ただ、いまの中国が毛沢東時代と決定的に違うのは、多くの庶民が40年余り改革開放時代を体験し、情報化時代にあっても統制はあっても外の世界を完全にはブロックできないことだ。毛沢東時代のような民衆の熱狂的支持はない。当時の全体主義には民衆の熱狂に支えられるという側面があった。この点、いまの中国には熱狂までは感じられない。民衆の熱狂がなくても一元的な統治を可能にしているのは、当時はなかった科学技術である。いまの中国では人工知能（AI）でネット上の言論を細かく監視、不都合な情報は消去できる。加えてカメラや携帯電話による高度な人間監視システムによって行動を統制できる。AIを駆使した新しい全体主義ともいえるべき体制が築かれている。これは熱狂なき全体主義、21世紀の全体主義と言えるのではないか。

参考文献

- 習近平（2022）「中国共産党第20回全国代表大会における報告」
- 「党の百年奮闘の重大な成果と歴史的経験に関する中共中央の決議」（2021）
- 中嶋嶺雄（1964）『増補現代中国論』青木書店。
- エンツォ・トラヴェルソ（2010）『全体主義』平凡社。
- 習近平（2014）『習近平談治國理政』、（2017）『同第二巻』、（2020）『同第三巻』、（2022）『同第四巻』外文出版社。
- 中共中央宣伝部（2021）『習近平 新時代中国特色社会主義学習問答』学習出版社。
- 中共中央党校（2020）『習近平 新時代中国特色社会主

義思想基本問題』中共中央党校出版社。

『習近平新時代中国特色社会主義思想学生読本小学低年級』（2021）人民教育出版社。